

高低差で安心安全負担軽減両立



頭頸部を電動で起こして、生活の質向上が期待できる「QOLポジション」

増本龍樹社長は「当社のハイエンドモデルであると同時に、介護ベッドの最先端技術が惜しみなく搭載されている。操作ログ機能は『根拠に基づく用具選定の検証』等に活かせる機能」と自信をにじませる。

同社が重視するのがノーリフティングの取り組み。「Emi」は介護ベッドとリフトの相性にも配慮。脚座を縦・横に変更するだけで▽超低床（床高20〜62.5cm）▽「低床」（25〜67.5cm）に設定できるので、床走行リフトの併用もしやすい。

もう一つの特長が、超低床時と最大高の高低差を最大限確保したこと。増本社長は「製品設計で両立は困難だった。ただ、利用者の転落リスク軽減と、介助者の腰痛リスクを軽減させる業界最高レベルの床高にはこだわった」と力説する。

動作状況の視認を高めるリモコン

頭頸部・背上げ・脚上げ・高さ調整の4つについて細やかな調整が特徴。定評のある「スイングバック機構」を磨き上げ、腹圧や背圧等の一層の軽減を図っている。それぞれの動作は個別に動作ロックをかけることも可能。すべて手元スイッチで

ロック状態が一目でわかる設計になっている。ロック時の操作時には、ロック状態のアナウンスと表示がされるので利用者も分かりやすい。

リモコン部は黒地に白文字で高齢者の視認性に配慮。角度や高さの設定状況についても液晶部にカラフルに1度、1cm刻みで数値表示されるので、療養上の必要により医療従事者からの指示も忠実に再現でき、多職種間でのケアの統一ができる。

在庫負担・作業負担を軽減

卸事業者や福祉用具貸与事業者にも配慮。「脚座の縦横変更による高さ調整」とともに、1台でベッド長を3段階（181〜205cm）に設定可能な「スパーモジュール機能」も搭載したことにより、在庫負担の大幅な軽減が期待できる。

また、長さ調整は足側だけで設定変更が可能。ベッド組み立て時に、屈みこんだりする作業をなくし、上からはめ込む作業のみ。配線も非常に簡単な設計とすることで身体的負担感も軽減し、生産性の大幅な向上を可能としている。

問合せは同社（☎0120・20・1001）まで。

9月発売予定の「Emi（エミ）」は利用者のADLやQOL向上のため、ベッド上での摂食嚥下が最適化される頭頸部の電動調整機能を搭載。頭頸部0〜30度の「ADLポジション」のほか、新製品では、療養上の理由や居室面積の制約等から、離床して生活することが難しい場合でも頭頸部を0〜50度に維持し、まっすぐ正面を見る、安楽姿勢「QOLポジション」の設定が可能。また、リモコン操作で一定期間中の操作ログが確認できるので「ADL」、QOLの改善（悪化）と、ベッド機能の使用状況の関連分析」を示し、根拠ある用具選定ができる。